

平成 29 年度 決算認定に係る施策評価 等に関する提言(案)

※この提言案は8月1日、2日に開催した各常任委員会での協議を
まとめたものであり、9月に開催する各常任委員会での協議を経て、
提言を行います。
したがって、この案が最終的な提言ではありません。

飯田市議会

評価対象の「いいだ未来デザイン2028」の基本目標と担当委員会

基 本 目 標		担当委員会
1	若者が帰ってこられる産業をつくる	産業建設委員会
2	飯田市への人の流れをつくる	◎産業建設委員会 総務委員会
3	地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む	社会文教委員会
4	自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす	社会文教委員会
5	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	社会文教委員会
6	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	社会文教委員会
7	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社会文教委員会
8	新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	総務委員会
9	個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する	総務委員会
10	豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる	総務委員会
11	災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	◎総務委員会 産業建設委員会
12	リニア時代を支える都市基盤を整備する	◎産業建設委員会 総務委員会

※今回の提言（案）は、委員会ごとにまとめてあります。

基本目標8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	
評価	<p>①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題解決のための実行部隊の立ち上げと仕組みづくりに取り組んでいる点を評価する。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●田舎へ還ろう戦略事業は20地区応援隊の「ふるさと納税」を原資としているが、その納税金額が当初目標を大きく下回っている原因を明確にし、対応すること。
評価	<p>②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね評価する。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「〇人移住した」という確認も必要と考える。
評価	<p>③「取組は良かったか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前向きな姿勢 ●自治振興センター所長会に検討プロジェクトを設置しての活動 ●組合加入促進コーディネーターによる、加入促進活動。 ●地域おこし協力隊の活動が、地域に力を与えている。 ●「20地区応援隊」制度の開設・運営。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●組合未加入者対策は、災害時の共助体制や、自治会加入によるメリット(例えば、尾張旭市のポイント制度)を明確に打ち出す工夫が必要。 ●飯田市ふるさと納税の地区指定「20地区応援隊」の取り組みにおける、「返礼は地区との絆」という概念は理解されにくい。地区独自の返礼制度を自由に考えられることも一案ではないか。 ●「住民自治の課題」と地域おこしなどの「地域活性化」とは、共通部分はあるが、異なる部分も多い。地域を元気にしていただくだけでなく、地域自治の仕組みを構築していくことが極めて大切。
評価	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成の取り組みや要因分析をしっかりと行っている点は、概ね評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中山間地域は、人口減少のために住民自治が厳しい状況になってきているのではないか。「地域おこし協力隊」の活動では解決できない課題がある。「地域活性化」と「住民自治」との根本的な違いを把握した上で、住民が減少しても成り立つ「地域自治」を構築されたい。 ●地域自治組織に対して、市民の「満足度」・「疲弊度」を計測する仕組みを確立されたい。

基本目標8 新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる	
評価	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね評価できる。 ●中山間地域での地域経営は厳しいことも多いが、各地域も行政も頑張っていることを評価する。 ●10年が経過した「地域自治組織制度」の検証と、まちづくり委員会が関わる行政関連業務の見直しが必要。 ●中山間地域は、人口減少のために住民自治が厳しい状況になってきているのではないか。「地域おこし協力隊」の活動では解決できない課題がある。「地域活性化」と「住民自治」との根本的な違いを把握した上で、住民が減少しても成り立つ「地域自治」を構築されたい。
提言	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の取り組みがビジネスに結びつくケースを想定し、その支援策として、国・県等の助成金のみならず、市の自主財源を充てる取り組みも検討されたい。 ●組合未加入問題は、これまでのような「世帯単位での加入」という方法は限界を迎えているのではないか。加入促進のための意識付けの啓発を続けると共に、新しい方法の構築を検討されたい。 ●基本目標11と連携し、「きちんと防災に取り組むまちづくり」を推進されたい。当地域は潜在的に水害が起こる地域である。近年の極端な気象現象の下で、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを、「まちづくり委員会」・「自主防災組合」が取り組める仕組みを検討されたい。 ●地域おこし協力隊の活動は素晴らしい。その協力隊員に触発された地域の住民が力を発揮できる形や土壌作りを構築されたい。

基本目標9 個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主体的に市民活動をしようとする市民の支援、又市民が参画できるワークライフバランス等の取り組みは評価する。 ●「多様性を活かした地域づくり」の多様性には性別・年齢別・国籍・障害の有無など、色々な要素が含まれる。それらをすべて網羅して生かしていこうとする戦略の姿勢を評価する。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民活動を立ち上げようとする市民への支援の充実。 ●男女共同参画の取り組みがまだ不十分。(例えば市役所幹部職員の女性の比率や地域自治組織の女性役員の比率など。)
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現時点では指標は概ね妥当である。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この目標に対してこの進捗状況確認指標の項目が適切であるか疑問を感じる。新たにわかりやすい指標の検討。 ●飯田市の市民活動及び地域活動及び定義をきちんと明記しないと指標にはならない。 ●多文化共生社会の推進に向け、言語に対してのバリアフリー化も指標として必要ではないか。
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男性にとっての男女共同参画の推進、また、問題を認識しながら「ワークライフバランス」を積極的に推進するように取り組んでいる点。 ●言語バリアフリーの推進・環境づくりとして、外国人の年齢や状況に応じた取り組みを始めた点。 ●市民活動団体等の活動を把握するため、ムトス飯田まちづくり推進委員会にコーディネート専門委員会が設置された点。また、市民活動団体等へアンケートを実施し、回答内容に基づいて市民団体パワーアップ、すなわち支援体制の検討が始まった点。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ムトス助成金を受けた団体が衰退している場合もあり、今後の活動を見守るうえで調査が必要。市民団体個々の問題点の洗い出しと対策。 ●「ワークライフバランス」の推進にあたっては、事業所任せにせず、「今後の方向性」に記載してあるように、行政の連携で積極的に取組みに対する働きかけが必要。

<p>評価</p>	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会及び多文化共生社会の実現に向けた取組み、また市民活動を行いやすい環境づくり、それぞれへの取組みは時代の変化に対応している。 ●男女共同参画社会に向け、啓発活動の充実や、地域・職場における意識改革の重要性を認識し、地域活動や仕事における男女共同参画を推進しながら、仕事と生活の両立に重点を置いた点。 ●多文化共生社会の推進に向け、今後「やさしい日本語」を用いた対応を計画し普及を図ろうとする取組み。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会に向け、地域や家庭内における「女性はこうするべき」「こうあるべき」という意識が払しょくされるような取組みが必要。昨年の提言からの成果がなかなか見えない。 ●多文化共生社会推進への取組みが、市民は全市的な問題として捉えていない。市のグローバル化進展を謳われた上で、市民啓発も必要となってくると思われる。 ●市民活動団体へ具体的な支援が必要。
<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画に取り組んでいるか、なかなか進んでいないと思われる。 ●多様性を尊重する活動に消費生活をめぐる諸問題に対して取り組んでいることは評価できる。 ●「個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら交流する」ために他に取り組めることがあると考える。 ●各市民団体は地方自治を支える大きな力、その市民活動団体のパワーアップを戦略に取り入れたのは大いに評価する。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画社会の実現のためには、第6次飯田市男女共同参画推進計画に挙げられている具体的課題「2男性にとっての男女共同参画の推進」「6ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進」が肝である。この課題の解決に向け、旧態依然として地域や家庭に残る女性の役割の払しょくのため、必要な環境の整備、意識づけのための学習や啓発活動に取り組まれない。 ●男女共同参画の意識づけは、道徳意識と同様、成長しながら自然に身につくことが重要である。保育園や幼稚園に通園し始めたころから、男女分け隔てない指導をしていくように関係機関に働きかけられたい。 ●多文化共生社会に向け、「やさしい日本語」の使用による意識疎通を基本としているが、災害時等の緊急時は対応に限界があるので「ピクトグラム」を用いた世界共通表示、視覚で認識出来る環境整備をされたい。

基本目標10 豊かな自然と調和し、低炭素な暮らしをおくる	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概ね適正である ●地域環境権を行使した再生可能エネルギーの活用は、順調に進んでいる。 ●低炭素な社会の構築を目指した取組みは的を射ている。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「より高い市民意識を醸成」し、「環境美化活動・自然環境保全活動」等の推進、と謳われているが、「不法投棄・ポイ捨て」に対処する取組みが計画されていない。昨年度、議会から不法投棄に関する提言を行っている点を、しっかり受け止め、対応されたい。 ●市民レベルでの活動は見えているが、事業所の取組みが不明である。事業所における省エネの取組みや、地域における環境美化活動などの取組みへの働きかけが必要。 ●これまではモラル的な面での取組みであったが、今後はそれに加えて、環境をビジネスに活かす視点での取組みも必要である。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合戦略における重要業績評価指標(KPI)は、各項目で実績値が年々向上の傾向にある。 ●温室効果ガス削減量を指標とした点。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内の事業所が取組んだ温室効果ガス削減量や、街や河川の美化活動実績など、環境改善を把握し、数値化されたい。
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域環境権の行使により、初めて水力発電事業で小沢川小水力発電事業を認定し、支援に取り組んだ点。 ●リニア中央新幹線の工事による環境影響を確認するため、影響する水源(井戸や河川等)の調査を開始した点。 ●ユネスコ・エコパーク登録、日本ジオパーク認定の南アルプスの保存活動を展開し、森と動植物を守る観点から南アルプスに対する活動を強化した点。 ●「南信州いいむす21」の改訂に向けた取組みを、「地域ぐるみ環境ISO研究会」のプロジェクトに参画し、市民・事業者と共に進めた点。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「地域環境権」は、太陽光に偏り気味だが、再生可能エネルギー全般的な取組みが大切である。 ●「環境意識を醸成する人づくり地域づくり」という点において、「不法投棄問題・ポイ捨て問題」は取組まねばならない課題である。きちんとした取組みを実施されたい。

基本目標10 豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる	
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」 【評価できる点】 ●「環境文化」を都市間交流推進のツールと捉えた認識と方向性は評価できる。 【改善・修正が必要な点】 ●太陽光の取り組みが飯田市の特徴だったが、今後はそれのみに特化せず、再生可能エネルギー全般での幅広い分野での取り組みが必要である。 ●環境負荷はCO2だけの問題ではなく、不法投棄やごみのポイ捨ては、環境文化都市における「心の環境負荷」といえる。その対策を具現化できる戦略と取り組みが必要。
評価	★【総合的な評価】 ●「環境文化都市宣言」を行い、「21'いいだ環境プラン」・「環境モデル都市行動計画」に基づいて取り組んできた方向性は評価できる。
提言	【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】 ●環境への取り組みが、飯田市としてのブランディング事業のメインとなるよう、検討されたい。またリニア駅周辺を環境モデル街区とするべく、エネルギーパーク化の可能性を検討されたい。 ●南信州広域連合のごみ焼却施設が、ガス化溶融炉からストーカ炉になったことで灯油の使用料がほとんどなくなり、低炭素化には貢献できている。その一方で、これまで容器包装リサイクル法でリサイクルしていたプラスチック類が、燃やすごみとされている現実があり、対策を講ずるべきである。 ●家庭用蓄電池の普及のために、初期投資を軽減する施策をさらに充実されたい。 ●太陽光発電機器システムの耐用年数が経過したものの後処理の方法を検討されたい。 ●小沢川の小水力発電事業は全国的に注目を浴びていることから、市内他地域に積極的に小水力発電事業を展開し、飯田市がパイオニア的な存在として、全国のモデルとなる取り組みをされたい。 ●リニア中央新幹線工事の環境影響調査について、地下水・湧水・河川の汚濁、大気、騒音対策、希少動物の調査に加え、リニア事業の残発生土運搬ダンプ通過地域の生活環境対策に取り組まれたい。

基本目標 1 1 災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める	
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最近の気象変動は何が起こるかわからない時代。防災・減災のまちづくりの戦略は適正である。また市民半分以上が防災の訓練に参加している点は評価できる。 ●情報伝達体制の強靱化への取り組み及び災害時における情報伝達に視点を当てていることは評価できる。 ●各地域で自主防災組織が機能している。 ●過去の災害事例を教訓にした取り組みがなされている点は評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●近年ゲリラ豪雨にみられる短時間での強降雨・急出水は現在の排水路(特に農業用水路)では、処理できない箇所が見受けられることから、地域からの要望の有無に関わらず適宜改修を行っていくことが必要である。 ●戦略は「防災」と「社会基盤」の2つに分けて表記すべきではないか。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練も地域に定着し、参加する市民の人数が増加していること。 ●社会基盤整備を計画的に行っており、特に進捗状況確認指標「長寿命化計画で緊急輸送路関連橋りょうの修繕工事完了数は順調に推移しており、評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●進捗状況確認指標として、防災訓練の参加市民数もいいが、そろそろ量から質の活動評価につながる指標もあってもよいのではないか。
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●独居高齢者宅への家具転倒防止、設備設置状況の個別訪問が約360戸行われ、しっかり調査し、今後も継続されて行うという点。また高齢者の集会等へ交通少年団が広報活動に出向いたことは評価できる。 ●土砂災害訓練や職員を対象とした訓練・災害即応体制の充実などよくやっている。 ●消防団員の確保に各分団が広報活動に努めている点。 ●河川自然災害工事5ヶ所、集中豪雨危険個所の解消として、排水路整備事業15ヶ所の工事を完了したこと。 ●妙琴浄水場更新整備については、計画通り事業が進捗していることは評価できる。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防団の新入団員の確保が難しくなる中、退団者(満了・中途)の内訳を整理し、特に中途退団者の理由を分析したうえで退団者をいかに減らすかという取り組みが大切であり、そのためにも知恵と工夫を凝らすべきと考える。 ●市民の防災意識を高めることは重要であり、ハザードマップの更新も含めて更なる啓発活動を行われないか。また、地域ごとにばらつきがあると思われる自主防災の充実に向けてスケジュール化が必要ではないか。 ●民間企業の社屋等建築物の耐震化状況の把握が必要ではないか。 ●土砂災害計画特別警戒区域の住民への伝達方法について、実際に発表されたときに確実に伝達できたか検証すべきである。

<p>評価</p>	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会問題化している高齢者交通事故抑制のために、高齢者集会等での交通安全講習実施や啓発活動行うことについて評価する。 ●自主防災リーダー養成研修会での学習機会の醸成を図ろうとしていることは、新たな知見を学ぶいい機会と捉え、予測不能の災害が有ることを認識した体制が出来つつあり、そのためにも避難所の開設、訓練を通して各地域で自主防災組織が機能している点。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害が発生しそうな状況において、市民自らが気象情報や天竜川・遠山川の水位などの情報を取得できる方法を伝える。 ●社会基盤整備は予算の課題が有るが、その計画を情報公開して市民と共有する。 ●地震災害に対応した防災訓練内容の検討。
<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「戦略」及び「ねらい」のとおり進められている。市民の防災意識を更に高めることが求められる。 ●市民の生命財産を守ることは行政の第1目標として位置づけ活動していることを評価する。 ●総合的に見てしっかりできている。今後は防災行政無線の計画的な設置に心がけてほしい。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災に対し市民意識を高めることがとても重要であり、「防災もきちんと考えていくまちづくり」を推進されたい。当地域は潜在的には水害が起こる地域である。近年極端に気象現象が起こりやすい気候の中で、幸せに暮らすための工夫を重ねるまちづくりを「まちづくり委員会」「自防災組織」が取り組めるように、市民協働環境部(ムトスマちづくり推進課)と連携して進められたい。 ●自主防災会の評価に訓練の内容などの評価が入らないか検討をすると同時に、地域防災を統括する危機管理室および役所の体制も指標を設け、戦略目標とすべきでは。危機管理体制の更なる充実が必要と判断する。他の自治体への応援や市民への啓発活動も含めて現行の戦略の拡大を図られたい。 ●災害抑止として高齢者等の家具転倒防止設備について地域の協力を得ながら設置を進めるとともに、住宅の耐震診断の実施の有無の調査も実施されたい。 ●災害時の避難情報の確実な伝達を行うため、情報弱者に防災ラジオ(携帯ラジオ)の配布、また飯田エフエム放送の受信が可能となるよう中継局の新設などを実施されたい。また、緊急時には情報が市民に自動的に届くような仕組みを検討願いたい。 ●消防団員の優遇措置として、努力に報い報奨制度の設置が期待されるので検討されたい。 ●消防団員確保は、現状を踏まえ更に見直すべき。退団者が新入団員として担うことは異常である。消防力の観点でいけば、機器の高性能化と整備の充実が進んでいる。。その点も含め消防団員の定数及び消防力・整備の考え方を検討を進められたい。消防団員以外の市民にも予防消防として必要な知識・技能を身に付けてもらう機会創出が、今後一層必要になると考える。検討を進められたい。 ●安心・安全のまちづくりの観点では、戦略目標を2分し、それぞれの狙いを明確にした上で、社会基盤整備に対する予算設置に対する配分設置の考え方を見えるように取り組まれたい。

基本目標3 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	【評価できる点】 ・概ね適正である。
	【改善・修正が必要な点】
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・「保護者・地域の人の教育活動への参加率」は統計の取り方が客観性に乏しく、進捗状況として求める数字の意図も分からない。 ・「ICT活用のための校内研修の実施率」も戦略の進捗状況を確認する指標としては適正でない。 いずれも「戦略」にあった指標を検討されたい。
評価	③「取組は良かったか」
	【評価できる点】 ・小中一貫教育に対し検証が行われている。 ・全校にコミュニティスクールが導入された。 ・LG教育の方向性は良い。 ・高校生を中心とした地域人教育では飯田OIDE高校で先駆的に行われている。 ・ICT教育ではモデル校を中心に環境が整いつつある。
	【改善・修正が必要な点】 ・児童生徒の学力向上に向けては、データのクロス集計、分析などから現状の把握に努め、施策展開に活用されたい。 ・小中連携・一貫教育は、中学校区ごとのカリキュラムの作成を全教科で実践されたい。あわせて、コミュニティスクールの施策との整合性を図られたい。 ・小中連携・一貫教育の推進により、中一ギャップによる不登校生徒はいないが、不登校児童生徒は増加傾向にあり、その分析と対応が求められる。 ・学校運営協議会の機能のさらなる向上を目指されたい。また、会議内容等を広く周知する等、コミュニティスクールに対する市民や先生の理解を深めること。 ・LG教育の取組は学校でも苦慮している。人形劇フェスタをとおしての外国劇団との交流や、地域や公民館ばかりではなく、企業やその人材を視点にした取り組みを取り入れてはどうか。 ・ICT教育は、H32までに全校への展開を目指すところだが、進み方が遅いのではないかと。試行したところの実証をまとめ展開されたい。 ・地域人教育の推進は、県教委と市教委の立ち位置を明確にし、他の高校への展開を位置付ける必要がある。 ・地域人教育の啓発が市民に対してまだ不十分ではないか。地域人教育の啓発の場づくりが必要ではないか。

<p>評価</p>	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね妥当と考える。 <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの課題に取り組んでいるが、教職員の働き方改革の視点も含め、具体的に施策展開する必要がある。 幼保小の連携を進められたい。その際主な関係課に子育て支援課を加えられたい。また、多様な家庭環境における学力の維持・向上とあるが、健康福祉部と連携する必要がある。 コミュニティスクール専門の担当が必要ではないか。また、地域人教育で活動している高校生のコミュニティスクールへの参画が図れないか。あわせて、コミュニティスクールに参画しているボランティア同士の交流を行い事業推進を行ってはどうか。 学輪IIDAで訪れる学生や外国人にLG教育に協力していただけるつながりを作れないか。 ICT教育では域内先進地からも学び、域内でも共有した展開を図るべき。
<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体としては評価できるものの、課題も残されている。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生きる力」も身につけるためには親の影響が大きい。子供のしつけや育て方の不安を持つ親もいる。子育て支援課も一緒に学べる環境づくりを考える必要があるのではないか。 コミュニティ・スクールについては、学校と地域の理解を深めると共に、学校運営協議会が本来の意味で機能するよう、教育委員会が中心となって進められたい。また、ボランティアなど事業に携わる市民の方の理解が深まるよう、専門担当者の配置による活動支援を検討されたい。 <p>■子どもの教育には、基本目標に定めた施策展開のほかに、安全に、安心して学習等に取り組める環境と、そのための環境整備も必要である。(この点については、委員間の議論でも共有されており、委員会としても予算決算などの審査をとおして、必要な提案を行う旨も確認した。)</p>

基本目標4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	【評価できる点】 ・概ね適正である。
	【改善・修正が必要な点】 ・「地域振興の知の拠点」という表現は修正が必要。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・現在設けられている指標については「戦略」にマッチした指標とするよう検討されたい。 ・美術博物館来館者数は特に目標設定の数字があいまいであり、明確にされたい。
評価	③「取組は良かったか」
	【評価できる点】 ・美術博物館で「菱田春草」の常設展が始まった。 ・飯田古墳群の保存活用のための整備が進んだ。 ・人形劇の取り組みが40周年を迎え、AVIAMA総会の開催地ができる段階になった。 ・遠山郷の埋没林、埋没樹を市の天然記念物に指定し、情報発信した。
	【改善・修正が必要な点】 ・春草常設展は、生誕地公園ともにさらなるPRと活用を図られたい。 ・史跡、名勝は守り、維持することから、その活用について今後は観光部門等とも連携し、交流人口拡大に資するよう事業展開されたい。 ・恒川清水などの史跡は、当時の姿を復元整備することで、あらためて認知度を高め、活用につなげることも必要ではないか。 ・人形劇「サンショウオ」など市民の創造の場が広がっているが、練習場所や大道具置き場などしっかりした支援をされたい。 ・「地域振興の知の拠点」という表現は不適切。例えば「文化の拠点」などに訂正してはどうか。 ・「地域振興の知の拠点」の構想を早急に示すべきではないか。 ・ユネスコブランドの価値を啓発できていない。 ・遠山郷の資産も活用しなければ保存継承は難しい。

<p>評価</p>	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新たな文化を創り出す」とはどのようなことか、戦略の展開の中で示していただきたい。 ・春草常設展をきっかけに観光課との連携を深められたい。 ・飯田下伊那の石仏を調査対象としたらどうか。 ・史跡、名勝等の活用のため観光事業者等と連携したらどうか。 ・「小さな世界都市」のなかで大きな比重を占める人形劇であるのなら、夏の一時期のみの発信でなく、一年を通して人形劇を発信できる取組と、その検証が必要。 ・人形劇について交流や観光という視点を持ち、さらに将来を見据えた方向性を定めるべき。 ・遠山郷について観光視点の啓発をすべき。また、活用に必要な環境(道路)整備等も行うべき。
<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や歴史を守り、維持することは着実に行われているが、「地域振興の知の拠点」構想は名称の変更も含め早急にまとめる必要がある。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域振興の知の拠点」については、名称変更を含めその構想を早急にまとめられたい。 ・史跡、名勝は守り、維持することから、その活用について施策展開していく必要がある。今後は観光部門等とも連携し、交流人口拡大に資するよう事業展開されたい。

基本目標5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	【評価できる点】 ・概ね適正である。
	【改善・修正が必要な点】
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・「子どもを産みやすい環境のまちだと思ふ人の割合」で目標が40%となっている。これの根拠の説明を含め、目標40パーセントについて再検討されたい。
評価	③「取組は良かったか」
	【評価できる点】 ・保育料、医療費の軽減や「信州やまほいく」の認定取得など子育て政策が進んでいる。 ・保育士による産後1ヶ月から2か月児の家庭訪問の評判が良い。 ・出会いの機会創出として結婚組数に成果があった。
	【改善・修正が必要な点】 ・働き手の減少という日本社会の構造的問題が大きくクローズアップされている時代にあって、特に未就学児・小学生がいる家庭から子育てと仕事を両立させるための環境を整えてほしいとの要望が多く寄せられる。市立保育園の延長保育については市が財政援助を行うべきではないか。 ・「健康な子育て」という表現は再考すべきではないか。 ・特に、男性ひとり親家庭では働き方により求めるサービスに違いがある。働きながら子育てする環境の充実が必要。また、施策の視点として、父親へのアプローチも必要ではないか。 ・ひとり親世帯への学習支援事業については、その内容や進学につながったかの検証が必要。また、家庭環境の対策や検証も必要。 ・児童虐待について件数が増加している。背景として、社会的意識の高まりがあるかもしれないが、検証と対策が必要。 ・婚姻件数等が前後の年と比べると極端に多い年があった。このことは良いことではあるが異常値と認識すべき。数字の変動には敏感に、分析、検証を進めることも必要。 ・今後の方向性において、「子育て環境を、移住したいと思える魅力として発信」とあるが、現在子育てをしている人が「この地域の子育て環境は本当に素晴らしい」と思ってもらえることの方が肝要。市民意識調査のレベルでなく、もっと詳細なニーズ把握が必要。

<p>評価</p>	<p>④「時代や状況変化に対応しているか」</p> <p>【評価できる点】</p> <p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の幼保無料化政策や働き方改革の動向により、保育等のニーズがさらに高まることが予想される。これらは、保育士等の獲得競争の過熱化や、結果として待機児童の発生に繋がる恐れもある。今のうちから、実態を正確に把握したうえで、対策を検討しておく必要がある。 ・子育て世代はSNSを活用している。子育て情報をSNSを使用して発信するような施策を検討してはどうか。 ・発達支援の取り組みが成人過ぎまで続くよう検討されたい。 ・子育て施策として、親と子だけでなく、祖父・祖母との交流体験も検討したらどうか。 ・結婚に向けた取組は、「おせっかい高齢者」の活用はどうか。現在ある「結婚相談員」との整合性を考えられたい。また、婚活について、民間のプロに学んだらどうか。
<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んでいる姿勢は評価するが、さらに、理想実現に向け取り組みを強められたい。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小戦略について、基本目標にある「結婚」・「出産」・「子育て」のテーマごとに、わかりやすくまとめられないか検討されたい。 ・国の幼保無料化政策や働き方改革の動向により、保育等のニーズがさらに高まることが予想される。これらは、保育士等の獲得競争の過熱化や、結果として待機児童の発生に繋がる恐れもある。今のうちから、実態を正確に把握したうえで、対策を検討しておく必要がある。 ・働き手の減少という日本社会の構造的問題が大きくクローズアップされている時代にあって、特に未就学児・小学生がいる家庭から子育てと仕事を両立させるための環境を整えてほしいとの要望が多く寄せられる。この視点から今一度政策を見直してはどうか。(地元による延長保育の運営費等については、財政的な支援も必要) <p>■行政評価に合わせ提供された「別冊データ集」では、婚姻件数等が前後の年と比べると極端に多い年があった。このことは良いことではあるが異常値と認識すべき。目標人口を定めていることから、人口の動向には注視し、要因等の分析を行い、場合によっては必要な施策を講じる必要もある。追跡調査等も含め、人口の動向をモニタリングすることが必要。</p>

基本目標6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	【評価できる点】 ・概ね適正である。
	【改善・修正が必要な点】
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・「健康寿命」(平均寿命との差なども含む)や「特定検診受診率」は指標とすることを検討してはどうか。
評価	③「取組は良かったか」
	【評価できる点】 ・生活習慣病重症化予防対象者への保健指導が97%と高い。 ・介護予防教室の増加や自主的なグループが立ち上がってきている。 ・歯の残存本数が、平成29年度に1.3本多くなったこと。
	【改善・修正が必要な点】 ・健康づくりは、事業所に対する働きかけも必要。小戦略①のテーマを「地域・企業・家族」とし、事業所への働き掛けも強化されたい。 ・特定検診の受診率を上げるため、分析と原因を検討したうえで、対策を講じること。 ・介護予防を進める上で、男性の各種講座などへの参加率が低い。夫婦への呼びかけ、男性が参加したくなるような企画によって予防事業の展開を図られたい。 ・栄養士の役割として、食育の教育の展開に貢献するようなことを検討されたい。 ・料理教室では「ふるさとの味」を生かしたものとされたい。 ・プラステンの基礎となる運動を1回以上というのは何を指すか明らかにすべきではないか。
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・商業施設などで簡易な検診を実施し、健康づくりのきっかけとする取組はどうか。 ・健康マイレージ制度など、楽しみながら健康に関する取り組みができる仕組みを導入してはどうか。 ・市の政策を検討するとき、今までの65歳を高齢者ととらえるのではなく、70歳とするように変えたらどうか。また、「介護予防」というネーミングを検討したらどうか。 ・民間企業と連携した健康事業を検討してはどうか。 ・食育の推進では、発酵食品・地元野菜の摂取や、農家と連携した取組みなどをおした推進を図られたい。 ・「プラステン」の取り組みを、事業所へ働きかけてはどうか。 ・農作業の運動効果を「見える化」し、農業振興と健康推進をミックスした取組みを検討してはどうか。 ・歯科医師会では「卑弥呼のはがいーぜ」の周知をしている。市としても啓発活動に使ったらどうか。

<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年度での取組で数値が改善する戦略ではないので、成果についての評価は難しいが、市の財政に与える影響が大きいテーマでもあり、市民の意識付けに力点を置いた取組に期待したい。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業は進められてはいるが、この予防活動でどれだけの医療費や介護費に抑制につながっているか、はっきりしない。ism-Linkが介護面への利用拡大されることから、データ・数値を分析し、医療費や介護費の抑制(数値の見える化)につなげられたい。 ・男性の介護予防事業等の参加が少ない。軽スポーツを取り入れた介護予防事業の採用や、まずは人とのつながりに着目し、夫婦で参加しやすい事業などを取り入れ、男性の事業参加率の向上を目指されたい。

基本目標7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	【評価できる点】 ・概ね適正である。
	【改善・修正が必要な点】
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・市民意識調査「支え合える関係であると思う割合」を指標としたらどうか。
評価	③「取組は良かったか」
	【評価できる点】 ・飯田市見守りネットワークが構築されたところ。 ・地域福祉計画が発足し、地域ケア会議が開催されたこと。 ・認知症初期集中チームなど、オレンジプランで示された項目にすべて取り組んだこと。
	【改善・修正が必要な点】 ・生活支援コーディネーターが、全地区で十分に役割を果たせるよう支援が必要。 ・支え合いマップが全地区で作成され、1年に1度は更新されていくこと。 ・福祉政策全般にわたって、必要な公的支援を強めること。 ・見守りネットワークのさらなる拡大、強化。 ・団塊の世代を「社会参加意識の強い」という記述は不適切。 ・「認知症に関する「今後の方向」は具体的な取り組みの内容が不明。今後明確にしていきたい。 ・認知症カフェを拡大されたい。 ・障がい者の雇用の促進のため、産業経済部と連携した取組みを明記されたい。(関係部門として加えられたい。)
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」
	【評価できる点】
	【改善・修正が必要な点】 ・地域との支え合いに取り組む気持ちのある市民が顕在化していないのではないか。例えば、NPO法人の支援策を策定し、そうした市民の顕在化を図られたい。 ・介護認定を受けていない認知症の症状がある人に対する対応を検討すべきではないか。 ・運転免許書の自主返納の誘導を図られたい。 ・障がい者・障がい児そのもののネーミングと各種イベントのネーミングを検討したどうか。 ・障がい者に寄り添い、実態を把握するように努められたい。

<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <p>地域福祉計画や地域包括ケア計画がスタートしたばかりだが、この時期としては順調なのではないか。</p>
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉課題について地域差が生じている。市と地域(自治会長、健康福祉委員など)が協議する場を設定するなど、施策づくりの目安とされたい。 ・独居高齢者の交流(人とのつながり)について現状を把握し、施策づくりの目安とされたい。 ・「地域とともに創る障がい児・者との共生社会の現実」では、障がい者雇用の面で、産業経済部も関係部局とした取り組みを進めてはどうか。

基本目標1 若者が帰ってこられる産業をつくる	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成の取組みなど、概ね評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が帰ってこられる産業を作る、というのが、果たして若者が帰ってこられる産業とは何か解った上で展開しているのかが疑問。何かを掴むことも必要では。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内回帰と定着率について今回から分離している点。これによりUターンする学生の動向把握がしやすい。 ・KPIの就職者数は、前年度を下回っているものの、基準値と比べた確認指標は上回っているため概ね評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校卒業生の地元就職者数」「進学者のUターン就職者数」は母数がわからないと判断することができないため、母数および率を併記されたい。 ・市田柿の出荷量は総量で表記しないと推移が分からない。また、売上高について、別冊データ集に掲載されたい。
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新事業創出支援協議会「I-Port」の創設による地域の起業力や事業展開力の向上につながる取り組みは評価できる。 ・森林管理認証を取得したことは、地域産業の高付加価値化につながる展開と評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実酒特区の認定は受けたが未だ具体的な方向性が示されない。現状を把握し生産者への支援を検討されたい。 ・「I-Port」による支援体制は整えられてきたが、まだまだ、市民の認知度が低い。飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善されたい。 ・利用可能な空地、空家の情報を把握し、企業誘致に結びつける仕組みづくりに取り組まれたい(産業センター内に設置するなど)。
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市部の若者世代に対し、飯田で起業する気運を促していきたい」とする姿勢は今後の時代認識にマッチしていると考えられる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的試験場を管理運営できる専門人材の確保について、具体的な方向性を示す必要がある。 ・昨年の提言にある、若者の志向調査などに取り組まれたい。 ・新たな高度試験装置他、拡張される産業センターの人材育成、マーケティングを含むマネジメント力強化への支援。

<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦略」及び「ねらい」は概ね評価できるが、回帰率が示すように成果が出てきていない。一貫したキャリア教育に含む「大学生」、起業の気運を促したい「都市部の若者世代」とどう具体的に接点をつくっていくかを検討するなど、小戦略をさらに充実していくべきと考える。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域内経済循環 <ul style="list-style-type: none"> ・従来の「外貨獲得」の考え方だけでなく、田舎へ帰ろう戦略と順応する地域内経済循環思考を取り入れ、地域内乗数3(LM3)の指標を調査・研究されたい。 ●新たな産業振興と人材育成の拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな産業振興の拠点として南信州・飯田産業センターの役割は益々重要となる。管理運営力のある専門人材確保のため市は最大限協力するとともに、整備後の施設を活用し産業振興の拠点形成につなげるため、組織をあげマーケティングやマネジメント力向上に努められたい。 ・新産業への取り組みは重要だが、MRJの開発遅れなど、新たな産業振興として航空宇宙産業に特化することは危険である。一方、地場産業や手を打ち支えることが必要な弱い産業に対する行政の指向が見えない。このまま放置すれば衰退してしまう地場産業に対する目に見える支援こそ今必要と考える。地元企業が行政に何を求めているかを精査し、地域産業の育成に取り組まれたい。 ・(昨年に引き続いての提言事項)若者が帰って来られる産業をつくることを目標とするならば「若者が志向する産業とは何か」を捉え地域産業の実態との乖離等を勘案し、その上で政策的に何を支え育むかについて検討し取り組まれたい。 ●起業・就業支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「I-Port」、起業家ビジネスコンペなど起業支援制度は整えられたが、まだまだ市民に認知されていない。より有効に活用されるために、飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善することや、受賞者を継続的に支援する仕組みづくりを検討されたい。

基本目標2 飯田市への人の流れをつくる	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を中心拠点ととらえ、魅力づくりに取り組もうとしている点や「田舎へ還ろう戦略」の取り組みなど、概ね評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の提言、「小さな世界都市」構築に向け、デザインコードの研究やICTを活用したアプリの開発研究などを進められたい。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエリアを訪れた観光客数や子育て世帯の移住者数、UIターン就農者数、故郷に愛着を感じている高校生の割合を示している点など概ね適正である。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力・ブランドを磨き上げてというが、確認指標・KPIともに因果関係がわかりにくい。ズレている。 ・進捗状況確認指標には、人口動態の社会動態を目標に取り上げるべき。 ・目標値に対し、実績値がほぼ同等もしくはすでに達成されたものが多いことから、目標値の見直しを検討されたい。
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20地区の個性を輝かせる、田舎へ還ろう戦略は評価できる。 ・「地域の魅力プロモーション」に、積極的に取り組まれている。 ・天龍峡温泉交流館「ご湯つくり」がリニューアルオープンし、43,000人を超える来館者があったことは、天龍峡再生や地域活性化の一つの拠点として評価できる。 ・丘のまちフェスティバル、丘のまちバルなどの各種イベントを開催し、多くの来街者により中心市街地の賑わいが広がってきていることは評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20地区の取り組む「田舎へ還ろう戦略」を「見える化」するなど、各地区の取り組みや事例をお互い学べる仕組みづくりが必要である。 ・地域が主体で取り組むことを基本に、当面は自治振興センターがリードし、ふるさと納税の実態について、原因の究明と改善をおこない、必要に応じ専門性を持った人材派遣や資金面での支援策を講じる必要がある。 ・県内市町村の中でも、特に飯田市よりも移住者の多い市町村が何をしているのか分析したうえで、他市町村との差別化を図る必要がある。
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「就労」以外の移住希望という時代の流れを認識し対応している。 ・(株)南信州観光公社が進める日本版DMO正式登録を支援。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題はわかっていると思うが、相対的に深掘りが足りないのでは。言葉での表現は美しいが、実際はどうなのか、何が足りないかの分析がない。 ・飯田を訪れる人の行動パターン、行動範囲などの情報分析が不十分。また、分析から導かれる戦略が見えてこない。 ・移住戦国時代という認識で、都市間競争に打ち勝つためにもスピード感をもって対応されたい。 ・ピアゴ閉店への対応。

<p>評価</p>	<p>★【総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの変化を認識した上での取り組みを評価する。 ・観光と移住定住が混在している感がある。観光を切り口に交流人口、関係人口、活動人口、移住・定住人口へつなげていく体系を整理されたい。 ・「未来デザイン2028」人口ビジョン達成の人の流れをつくるメインの基本目標だが、そこからバックキャストで戦略が構築できているのか疑問である。 ・4つの課題に対する具体的な自己目標が見えないのが不満。
<p>提言</p>	<p>【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目標設定など <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標2「飯田市への人の流れをつくる」は最重点目標の一つともいえる。それだけに4つの戦略目標それぞれに対し、多少なりとも年次の自己目標を設定すると活動が見えてくるし、取り組みがいつも出てくる。一考されたい。 ・「いいだ未来デザイン2028」を進めるうえで飯田市人口の社会動態状況把握は極めて重要である。年度毎の転入・転出者数を人口ビジョンの中で指標として位置づけ進捗管理されたい。 ●田舎へ還ろう戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・20地区が取り組む「田舎へ還ろう戦略」はいいだ未来デザインの最もコアな戦略の一つであり、チャレンジを成功させるためには市民の深い理解と創造性、各地区の知恵が欠かせない。自治振興センターを中心に今まで以上に戦略を「見える化」するなど、必要な行政支援を行われたい。特に地区指定ふるさと納税制度については、当初の目標を著しく下回る現状にあり、行政も当事者としての自覚を持ち各地区と一緒にあって真摯に取り組まされたい。 ●移住・観光 分析等 <ul style="list-style-type: none"> ・移住者、旅行者を誘引するための新しい地域振興策の取り組みとして、基本目標4「自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす」と連動した「コンベンションビューロー(高度な研究・誘客推進機関)」の設立を目指されたい。 ・移住の際のトータルコストの優位性、自然環境、暮らしやすさや子どもを産み育てやすい環境、2地域居住などの優位情報を民間関連業者なども連携し発信してゆく仕組みづくりを検討されたい。 ・リニア新幹線開通を見据えた新たなターゲットエリアとして、横浜、相模原市等の神奈川県主要都市を視野に入れ情報発信してゆく事を検討されたい。特に横浜港は伊那谷の生糸で栄えた歴史があり、「物語」で繋がる都市間交流も考えられる。 ・これからの観光戦略にはインバウンドや首都圏からの研修受け入れ等の企画・運営力が不可欠である。地域連携DMO登録を目指す南信州観光公社との連携を強化し、強みである農家民泊、体験旅行を核に、遠山郷や天龍峡などの既存の観光資源を繋ぐ宿泊モデルの視点も大切である。 ・交流人口増を図るためにターゲットを明確にした取組が必要と考える。例として、若い女性をターゲットにした取組や、スポーツ交流と観光とを結びつけた取組を検討されたい。 ・飯田を訪れる人の行動パターン、行動範囲などの分析を徹底的に行い、確かな分析結果を基に交流人口増大戦略を立てられたい。 ●中心市街地 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアゴ閉店後の対応は中心市街地のあり方を考える上でも極めて重要である。市街地の空洞化対策と共に市街地の「賑わい」「暮らし」の視点に立ち、行政と地域が緊密に連携し、閉店後の空間活用策に取り組まされたい。 ・今年度のAVIAMA総会や世界人形劇フェスを契機に、小さな世界都市・飯田としての意識高揚に繋げたい。第3期中心市街地活性化基本計画の策定に当たっては、その自覚と誇りを認識できる計画策定をされたい。

基本目標12 リニア時代を支える都市基盤を整備する	
評価	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標の設定は課題認識等概ね適正であるが、小戦略をさらに充実していくべきと考える。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> リニア関連事業で影響を受ける市民との信頼関係づくりに部署をあげ取り組むこと。
評価	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」
	<p>【評価できる点】</p>
	<p>【改善・修正が必要な点】</p>
評価	③「取組は良かったか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文句を言われながらもよくやっている。 高校生を含む多くの市民がかかわるワークショップを開催し、駅周辺整備について考える機会を設けたことは評価できる。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「信州・伊那谷らしさを感じることができるようなリニア駅周辺の景観・環境・魅力づくり」を考えた時、交流広場や魅力発信施設、高架下空間の活用など、いつ頃までにどのような検討がされ、どのような形で市民合意がされるのか、手法やある程度の予定時期を示すことにより、良い意味での市民の機運が高まると感じる。
評価	④「時代や状況変化に対応しているか」
	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内10か所への公衆無線LAN整備の実施。
	<p>【改善・修正が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> リニア開通後の公共交通のあり方を早急に構築する必要があり、自動運転やEV・FCV、カーシェアリングなどへの対応と自転車の動線も考慮した道路整備を検討されたい。
評価	★【総合的な評価】
	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺整備、道路の新設改良、公共交通の在り方、関係自治体との連携など、同時進行で取り組まざるを得ない状況のなかで、大変な苦勞をされており概ね評価できるが、事業の進捗は順調とはいいがたく今後も影響を受ける市民の側に立った事業推進が必須である。またこの先10年、車社会が大きく変わる可能性があり、対応が必要である。

提言	<p data-bbox="235 218 933 264">【 「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="235 264 332 298">●全体 <li data-bbox="235 309 1469 413">・リニア関連事業は飯田市がかつて経験したことのない大規模な複合事業であり、従来の経験に頼った進め方では対応できない。飯田市の総合的マネジメント力が試されているといっても過言ではなく、リニア推進部を中心に市内の英知を結集し取り組まれたい。 <li data-bbox="235 436 1469 516">・「長野県の南の玄関口」は飯田を基点とした視座の印象があるが、「メガリージョンオアシス」等、県外を基点とした視座で飯田市の位置付けを点検し、都市基盤整備のデザインに反映されたい。 <li data-bbox="235 528 1469 631">・SDGsは次の時代につながる世界共通の価値観であり「いいだ未来デザイン2028」全体にも通じるが市民には十分伝わっていない。基本目標12において具体的にSDGsの価値観を市民に分かり易く政策展開に盛り込まれたい。 <li data-bbox="235 677 397 711">●移転対応 <li data-bbox="235 723 1469 826">・多くの事業が同時進行で推進されるなか、移転を余儀なくされる方や「地権者」への配慮を常に心掛け、影響を受ける住民側に寄り添い住民との信頼関係構築に今まで以上に努められたい。また、移転先での円滑な地域コミュニティ確保へも目を向け、相談体制の強化等を検討されたい。 <li data-bbox="235 872 495 906">●二次交通・新交通 <li data-bbox="235 918 1469 1056">・人口減少・高齢化社会における二次交通の福祉的充実益々重要となるが、一方、大交流時代を見据えた「楽しめるまち」を意識した二次交通やワクワク感のある徒歩や自転車での動線も重要となる。利用者数減少の要因分析やシミュレーションを行い、新たな発想の元での二次交通の政策立案に取り組まれたい。 <li data-bbox="235 1067 1469 1170">・駅周辺整備デザイン会議の座長小澤一郎氏から提言もされたが、リニア新幹線開通に合わせ、今後急速に進むAIやIoTによる新交通システムの構築、自動運転への対応等について、飯田市がいち早く研究着手されたい。 <li data-bbox="235 1216 576 1251">●道路河川等の社会基盤 <li data-bbox="235 1262 1469 1366">・(昨年に引き続いての提言事項)リニア・三遠南信自動車道関連の事業推進のために建設関連費が集中していく中、市民生活や安全にとって要望の高い道路・河川予算措置について方向を定め、地域全体の道路河川整備に不足が生じないことを考慮されたい。 <li data-bbox="235 1412 446 1446">●公衆無線LAN <li data-bbox="235 1457 1469 1515">・公衆無線LANの整備について、インバウンドなど今後の需要を分析するとともに、先ずは地域拠点である各自治振興センター及び公民館への設置について検討されたい。
----	---